

公的統計マイクロデータ研究コンソーシアム第33回運営委員会
議事録

- 1 日時 令和7年3月11日(火) 11時00分～12時00分
- 2 場所 オンライン会議(ZOOM)
- 3 出席者(運営委員) 南委員長、伊藤副委員長、伊原委員、植松委員、岡本委員、小松委員、佐藤委員、高部委員、森本委員、山下委員

4 概要

(1) 前回の議事録の確認

第31回運営委員会(オンライン)の議事録について、資料3に沿って説明・確認した。再度確認した上で特に異議があれば事務局へ連絡して欲しい。

(2) 第1号議案：統計関連学会連合大会企画(案)について

統計関連学会連合大会企画(案)について、資料4に沿って説明した。

- 本セッションは毎年企画提案しており、今回のテーマは「公的統計における二次的利用の新展開とプライバシー保護研究の最新動向」としている。企画の背景としては、来年度からリモートアクセスの運用という公的統計データの新たな利用形態が開始される。また、関連するプロジェクトとして「経済安全保障重要技術育成プログラム」(K-Pro)の研究課題「高機能暗号と連携するSDC技術の体系化と効率的な実装による大規模分散データの統合」が採択され、来年度4月から開始されるため、このプロジェクトに基づく研究活動が今回の企画セッションにも含まれる予定。
- K-Proについて補足すると、内閣府が主導するプログラムであり、文部科学省と経済産業省が共同で予算を管理している。プログラムの目的は、安全保障に関する重要技術の育成、特にセキュアなデータ利用を支えるための暗号技術や安全管理技術の開発に力を入れているものである。この中で、プライバシー保護技術に関する研究や、暗号技術の実証的評価も行われており、この実証評価の部分に公的統計マイクロデータ利活用が関わっている。
- 今回のプロジェクト(K-Pro)は非常に大規模なものになると認識している。プロジェクトを進めるにあたり公的な機関が所管するデータの活用と同時に、その保護のあり方も慎重に検討する必要がある。そのため、今回の企画セッションのテーマは、本コンソーシアムの企画としてふさわしいものだと思う。
今回は公的統計に関するセッションの中に、情報系の専門家による講演を含めているが、研究の基盤となるデータは公的なデータを考えており、将来的に社会実装へと発展する重要なテーマであると考えている。

(3) 第2号議案：コンソーシアム会員の認定について

新規の入会申込者について、資料5(投影のみ)に沿って説明し、1名の申込みについて審議し、了承した。

5 報告事項

(1) 第 17 回評議会について

12月11日に開催した第17回評議会について、資料6の議事録に沿って報告した。

- 今回の評議会では、運営委員、評議員の改選を承認した。また、第9事業年度の活動報告と、2025年からの第10事業年度の活動計画について承認を得た。また、11月のシンポジウム、NewsLetter、動画制作について報告し、以下の点について、意見が述べられた。
- コンソーシアム会員の認定について
現在の会員申し込みでは、最小限の情報のみを記載する形式となっているが、より詳細な職歴や研究領域などの情報を記載することで、会員の専門分野の分析が可能になる、との意見を述べられた。この点については、今回の運営委員会には間に合わなかったため、次回以降、どのように情報を修正・改善するかを検討する予定である。
- 動画の公開について
継続的に行うことは有益であると考えられるものの、動画編集のコストが高いのではないかと、この意見を述べられた。そのため、今回の動画制作では仕様とコストを見直し、必要最低限の編集で制作した。
- ウェブサイトの流動性分析について
どのページからコンソーシアムのサイトにアクセスされているかを解析した結果、現状では他のホームページからの流入よりも、SNSやメーリングリスト経由でのアクセスが多いことが分かった。この結果を受け、これらの流入経路を強化する取り組みが求められる、との意見を述べられた。
- 今後の長期的な取り組みについて
現在、情報・システム研究機構において防災関連のプロジェクト立ち上げを検討しており、公的マイクロデータを防災分野でどのように活用できるかを検討する必要がある、との意見を述べられた。

(2) シンポジウム「社会科学分野におけるマイクロデータ利用の現状と課題」開催について

2月14日に東京大学山上会館で開催したシンポジウム「社会科学分野におけるマイクロデータ利用の現状と課題」について、資料7に沿って報告した。

- 午前中のセッションでは、小松課長および伊藤先生が登壇し、最新の公的統計マイクロデータ提供の最新動向や海外の公的統計に関して報告した。また、東大社研側からは、社会調査データの利用サービスの開発、利用制度、メタデータの整備、データアーカイブの構築について報告した。また、午後の前半は、公的統計と社会科学それぞれの分野から2件ずつ報告した。
- 午後の第二セッションでは「社会科学分野におけるマイクロデータの過去・現在・未来」をテーマに、長年マイクロデータ利活用に取り組んできた登壇者によるパネルディスカッションを開催した。旧統計法改正に関する歴史的な経緯やSSJDAの立ち上げ、東大社会科学研究所における社会調査データの利活用についての議論、データ提供のあり方に関する検討の紹介など、非常に興味深い内容となった。このシンポ

ジウムの開催を通じて、社会科学分野の研究者間で強固なつながりを築けた。今後も継続的な取り組みを進めていきたい。

- 本シンポジウムは対面形式で実施したが、記録として動画を撮影した。今後、この動画の活用方法についてご意見があれば伺いたい。
- 今回の録画は当時の重要な議論が記録され、今後の研究や政策立案に有益な資料となることが期待される。また、このシンポジウムの内容を何らかの刊行物として公表できれば、より多くの人々にとって有益なものになるのではないか。
- 今後、フルバージョンに近い形での動画公開についても引き続き検討を進めていく。

(3) NewsLetter 第7号発行と動画公開について

NewsLetter 第7号発行と動画公開について、資料8に沿って報告した。

- 次回の NewsLetter では、2月のパネル討論の内容をまとめた記事を掲載予定である。また、前回から開始した全国のオンサイト施設紹介シリーズの第2弾として、京都大学経済研究所の施設を取り上げる。その他2024年のシンポジウムや評議会、シンポジウム講演動画の公開について、掲載を予定している。
- 昨年11月のコンソーシアムシンポジウムでの発表動画の公開を予定している。具体的には、統計センターの木村理事によるSSDSEを利用した食の地域性分析の事例、統計センターの千葉氏による匿名データの利用手続き、文部科学省総合教育政策局の相原氏による学力学習状況調査の結果に関する利用プログラムの紹介など、3件の発表動画を制作しており、本年度末に公開予定である。

次回運営委員会は、6月の開催を予定。

以上